

令和8年度 調布市立第一小学校 学校経営計画（学校長 秋國 光宏）

学校の教育目標	
◎思いやりの心もち、なかよく協力する（自他の人権を尊重し、認め合い、誰に対しても思いやることのできる力を身に付けた子） 【人間関係形成力】	
○よく考え、自分からすすんでやりぬく（自ら考え、表現し、調整しながら、粘り強く学習に取り組むことができる力を身に付けた子） 【自律学習力】	
○じょうぶなからだで、明るい生活をする（自らたくましい心と体をつくり、すすんで行動することができる子） 【実践力】	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
子ども第一主義の徹底 子どもを主語に、教職員と共に、地域と共に ～子どもの未来に希望をつなぐ共育の推進～	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	本校の児童は、学びに向かう意欲が高く他の児童と理解し合いながら、よりよい学校生活を創ろうと努めている。学校は児童が主役であり、何事にも児童自らが主体的に取り組むことができるよう教職員や保護者、地域による環境整備が必要と考える。そうした子どもファーストの理念に基づき、目指す学校像を設定した。
中期的な経営目標	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 豊かな心の育成・・・人権教育の推進や非認知能力の育成等を通して、児童の人権意識の醸成や共生社会の素地を育む。</li> <li>2 確かな学力の育成・・・児童の主体的に学ぶ意欲を高め、自らの考えや思いを表現できる力を育む。</li> <li>3 健やかな体の育成・・・児童の運動することへの関心・意欲を高め、体力向上や健康増進を図る。</li> <li>4 コミュニティ・スクールの推進・・・地域学校協働本部との連携を図り、地域と共にある学校づくりを推進する。</li> <li>5 生活指導の充実・・・魅力ある学校づくりに努め、児童にとって学校に居場所がある安全・安心な学校生活を整備する。</li> <li>6 特別支援教育の推進・交流及び共同学習の推進や、校内委員会の組織的な活動を推進することで、共生社会につながる理解を深める。</li> </ol>	
人・組 校内研究やOJT研修の充実を推進し、授業改善を図りながら個々の教職員の人材育成を充実させる。	

調布市立第一小学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 道徳科の授業の充実 考え、議論する授業を通して、自我関与が充実する授業を目指す。4年生以上は、学年内で交換授業を通し、全教員による全児童への授業を行う。	① 学年・教科担任制の構築 学年・教科担任制を推進し、担当教科の専門性を高めることで授業改善をすすめ、学力向上を図る。	① 運動への関心・意欲の向上 体育科や「ちょこプラ1」等の業間体育の取組の充実を図り、児童の運動に対する関心や意欲を高める。
② 多様性を尊重する機会の充実 縦割り班活動や特別支援学校・アメリカンスクール等の交流を通し、互いを尊重する心情や自尊感情を高める。	② ICT機器の活用の推進 タブレット端末を有効活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図ることで、主体的・対話的で深い学びを推進する。	② 食育推進や保健授業の充実 栄養士や食育推進リーダー、給食委員会による食育活動を推進するとともに、養護教諭による保健指導等を通して健康への関心を高める。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 児童アンケートの道徳教育の推進に関する項目で9割の肯定的評価を得る。	① 児童アンケートの学年・教科担任制に関する項目で8割の肯定的評価を得る。	①② 児童アンケートの健康・体力に関する項目で8割の肯定的評価を得る。
② 保護者アンケートの交流・体験活動に関する項目で8割の肯定的評価を得る。	② 児童アンケートのタブレット端末の活用に関する項目で8割の肯定的評価を得る。	
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 コミュニティ・スクールの推進	5 特別支援教育の推進	6 生活指導の充実
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 地域学校協働本部との連携推進 地域コーディネーターと連携し、地域資源や地域人材を生かした学習支援や安全・安心な環境づくりをすすめる。	① 人的環境整備の充実 組織的な校内委員会を推進しながら、教職員との細やかな共有理解を図り、統一した校内体制で支援に当たる。	① いじめ根絶の取組推進 いじめ総合対策【第3次】に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努め、児童の安全・安心な学校生活の推進に努める。
② PTA 組織との連携推進 学校行事や地域行事等を円滑にすすめることができるよう PTA や地域組織との連携を図る。	② 交流及び共同学習の推進 学校行事やクラブ活動等を通じた交流及び共同学習を行い、通常の学級と特別支援学級の児童との相互理解を図る。	② 不登校支援の環境整備 不登校支援として、校内教育支援センター別室を設け、不登校傾向及び、不登校児童の学校の居場所をつくる。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 学校評価アンケートの地域連携についての項目で8割の肯定的評価を得る。	① 学校評価アンケートの特別支援教育に関する項目について8割の肯定的評価を得る。	① 児童アンケートのいじめ対策に関する項目で9割の肯定的評価を得る。
② 学校評価アンケートの PTA と連携に関する項目で8割の肯定的評価を得る。	② 児童アンケートの特別支援学級に関する項目で8割の肯定的評価を得る。	② 校内教育支援センター別室を設置し、人的支援体制を構築する。

## 人材育成・組織運営

### ○人材育成について

- ①教科担任制を生かし、担当教科の専門性を高めることで、児童の学力向上につながるようにする。
- ②授業観察を通して、授業の自己評価と管理職による他者評価を繰り返しながら、授業力を向上させる。
- ③校内研究の取組を研究主任と連携を図りながら、各分科会の研鑽を活性化させ、授業改善を推進する。
- ④管理職を始め、各教員の専門性を生かしたミニ OJT 研修を月 1 回実施し、相互の指導力を向上させる。

### ○組織運営について

- ①学年担任制を生かした組織的な取組を推進し、学年団としての協力体制を向上させ、多面的な児童理解がよりできるようにする。
- ②校内委員会やいじめ防止対策委員会、不登校対策委員会等の進行管理を適宜行い、主任を中心とした組織運営の活性化を図る。
- ③生活指導や特別支援教育の課題等では、必要に応じて関係機関と連携して対応するよう働きかける。
- ④保護者や地域の声を含めた学校運営をすすめていくために、学校運営協議会において学校の諸課題について熟議をとおして検討・協議していく。